

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

# 2019年3月期 経営方針

2018年5月11日  
オリンパス株式会社  
代表取締役社長執行役員  
笹 宏行

## **免責事項**

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

---

## **IFRS任意適用について**

- 当社グループは2018年3月期第1四半期連結累計期間の連結財務諸表より、国際財務報告基準（“IFRS”）を任意適用しています。
- 比較分析のため、前連結会計年度の連結財務諸表につきましてもIFRSに準拠して表示しています。

■ 2019年3月期 経営方針

1. 16CSP（中期経営計画）2年間の振り返り

2. 成長に向けた今後の対応方針

■ 2018年3月期 決算概況

■ 2019年3月期 通期業績見通し

---

# 1. 16CSP<sub>(※)</sub>2年間の振り返り

(※) 16CSP : 2017年3月期を初年度とした5か年の中期経営計画

## 16CSP 2年間の振り返り： ①売上高の推移（連結、医療事業）

- 医療事業が順調に成長し、全社の業績を牽引
- 主力の消化器内視鏡が製品サイクル後半の中、**医療事業は過去最高の売上高を更新**



- 連結の売上高と、医療事業の売上高の推移について
- 直近の2年間は外部環境の影響などもあり思い描いていた通りの進捗とはいえないが、
- 医療事業はこの7年間で約8割増となり、主力の消化器内視鏡が製品ライフサイクル後半となる中でも、過去最高の売上高を更新
- 医療事業は着実に成長し、全社の業績を牽引
- その結果、映像事業が縮小する中、連結全体でも約30%の成長を達成

## 16CSP 2年間の振り返り： ②事業の進捗（医療事業）

### ■ 主力の医療事業は、全社の業績を支える基幹事業として今後の成長に向けた投資、施策を着実に実行

#### 16CSP重点施策（医療）

1. 圧倒的な消化器内視鏡ビジネスのシェア・収益性の維持拡大と処置具、外科の飛躍的拡大
2. 「インストールベース型医療ビジネス」から「症例数ベース型医療ビジネス」へ
3. 新興国市場でのビジネス拡大
4. GPO/IDN\*1対応強化
5. QA/RA\*2機能強化
6. 生産性の向上

#### （進捗）

- 外科分野では4K外科内視鏡システムによる他社アカウントからのコンバージョンが順調に進捗
- 処置具分野は計画に沿って拡大（特にERCP分野の販促を強化）
- 2桁成長を継続するエネルギーデバイス「THUNDERBEAT」の生産増強と効率化を目指して、北米での開発・製造体制を構築
- アジア・オセアニア地域は全分野で好調に推移、2年連続で2桁成長を達成
- 新興国市場のさらなる拡大に向けて、トレーニング/サービスセンターをタイ、ドバイに設立
- 2017年6月に買収したISM社との連携により、最大市場である北米において複数の大型IDNとの新規商談の獲得が大きく進捗
- 欧米を中心に、修理インフラの強化も順調に進捗

\*1)GPO(Group Purchase Organization):医療共同購買組織、IDN(Integrated Delivery Network):総合医療ネットワーク

\*2)QA/RA:品質・製品法規制対応

OLYMPUS

7 2018/5/11 No data copy / No data transfer permitted

- 医療事業の16CSP重点施策と進捗について
- 当社の成長ドライバーである医療事業では、今後の成長に向けて必要な投資を先行して行い、16CSPの重点施策に沿って施策を実行
- 特に、成長のコアと認識していた外科分野において、着実に手を打ってきた
- 戦略製品として位置づけている4K外科内視鏡システムは、競合他社製品を使用していたカスタマーからのコンバージョンが着実に進捗
- 昨年6月に買収を完了したISM社との連携により、最大市場の北米で、複数の大型IDNとの新規商談を獲得
- 2桁成長を継続するエネルギーデバイス「サンダービート」の生産増強と効率化を目指して、北米においてマーケティング・開発・製造が一体となった体制を構築
- 地域別では、アジア・オセアニア地域が消化器内視鏡、外科、処置具の全分野で好調に推移し、継続して2桁成長を達成と大変順調に進捗
- 課題はあるが、戦略の方向性は間違っていないと評価

## 外部環境の変化（16CSP策定時の想定とのギャップ）

### マクロ環境

- 16CSP策定時の環境認識と基調として大きな変化はないが、**法規制強化や技術革新など、事業を取り巻く環境の変化が加速している**

### 事業環境

	当初の環境認識と大きな変化なし	想定を超えた環境変化（ギャップ）
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国を中心とした新興国は2桁成長が継続*1</li> <li>症例数の増加に伴い、市場成長が継続</li> <li>先進国における医療費抑制の動き</li> <li>グローバルMedTech企業ほか、新興国企業の参入等新たな競争激化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EU-MDR*2や各国の医療機器申請・登録等の法規制の要求事項が高まっている</li> <li>北米を中心にリプロセス（洗浄・消毒・滅菌）要求の高度化の動きが加速</li> </ul>
科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業分野は、航空機・自動車などインフラメンテナンスは検査需要で成長が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライフサイエンス分野は、新興国は安定成長するも、先進国においては政府研究予算の停滞等により市場が縮小傾向</li> </ul>
映像	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルカメラ市場の縮小が継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミラーレス市場が伸長する一方で、競合の本格参入により環境が大きく変化</li> </ul>

\* 1) アジア・オセアニア地域の為替を除く成長率は2017/3:+15%、2018/3:+11%と2桁成長が継続。\* 2) EU-MDR：欧州医療機器規制

OLYMPUS

8 2018/5/11 No data copy / No data transfer permitted

- 前提となる外部環境について
- 医療の法規制強化や医療機器の洗浄・消毒・滅菌に対する要求の高度化、IoTやAI、ロボティクス等の技術革新については、当社を取り巻く環境の変化は想定を超えて加速
- 事業へも少なからず影響
- 一方で、16CSP期間の少し長い視点でマクロ環境をみると、当社を取り巻くトレンドや事業に影響する外部環境については、大きな変化は無いものと認識
- 中長期における、当社の成長を基本とするポジションに変化はない
- しかしながら、これら想定外の急速な環境変化によるリスクを認識し、経営目標達成に向けて取り組みを強化していくことが、経営として重要

## 環境変化を受けた事業への影響

### 環境変化を受けた事業への主な影響

#### 医療

- 法規制やリプロセス(洗浄・消毒・滅菌)、品質問題等への対応を、**既存製品に対して優先したことを主因に、開発リソースに制約が生じ、各種の主要な新製品の導入遅れにつながった**
- 外科分野では、新製品（VISERA ELITE II）の立ち上げ時の生産問題による供給遅れや、北米における認可取得の遅れ等による導入遅れ等を背景に、**外科はスローな出だしとなった**

#### 科学

- ライフサイエンス分野では、新興国で成長したが、先進国においては政府研究予算の停滞等を背景に前年並みの成長に留まった
- 産業分野は足元は全地域で堅調に推移しているが、16CSP初年度は市況の低迷を受けて**当初の計画よりも成長が出遅れた**

- 環境変化を受けた、事業への主な影響について
- 特に、医療事業において、新たな欧州医療機器規制の施行や、新興国を中心に増加する医療機器申請・登録など法規制への対応、
- 洗浄・消毒・滅菌への対応および、品質問題から自主的なリコールに至った案件が複数発生し、これら既存製品への対応を優先
- その結果、開発リソースに制約が生じ、各種新製品の導入遅れにつながった
- 外科分野では、新製品の生産立ち上げ時に発生した問題による供給遅れや、北米における認可取得の遅れなどを背景に、2桁成長を計画していた売上成長が期待に届いていない
- 科学事業は、ライフサイエンス分野において、先進国における政府研究予算の停滞等を背景に、前年並みの成長
- 産業分野は足元は全地域で堅調に推移しているが、16CSP初年度は市況の低迷を受けて、計画よりも成長が出遅れた

## 16CSP 2年間の振り返り： ③連結実績（営業利益、当期利益）

- **16CSP前半は後半の成長に向けた投資の期**と位置付け、この2年間、計画どおり実行
- **当期利益\*は安定的に確保できる体質に改善**



- 過去7年間の連結営業利益と当期利益の推移について
- 想定外の外部環境の急速な変化と、それによる事業への大きな影響がある中で、為替も追い風に、2018年3月期は営業利益、当期利益のいずれも前期比で増益
- 営業利益は、16CSPの最終目標達成に向けて、この2年間は必要な先行投資を行い、基盤を整えてきた
- 2013年3月期と比較すると、営業利益、当期利益はいずれも大きく増加
- 事業ポートフォリオ改革を始めとする様々な改革が、着実に収益拡大に寄与
- 医療事業の牽引に加えて、映像事業において収益が改善したことも寄与
- 特に、2015年3月期に配当を再開して以降この3年間、当期利益はしっかりと確保できる体質に転換
- 今後は、生産性・効率性の向上にも注力し、業績のバランスをとりながら、総力を挙げて施策に取り組んでいく

## 16CSP 2年間の振り返り： ④主要指標の進捗（16CSP経営目標）

- **ROEと自己資本比率は計画どおり進捗**
- 営業利益率とEBITDAは、想定を下回る進捗
- 特に、**事業成長性において課題を認識**（想定とのギャップを認識）

KPI	2017/3 (日本基準)	2017/3 (IFRS)	2018/3 (IFRS)	2021/3 (16CSP経営目標)
<b>ROE</b> (資本効率性)	19%	11%	<b>14%</b>	<b>15%</b>
<b>営業利益率</b> (事業収益性)	10.2%	9.6%	<b>10.3%</b>	<b>15%</b>
<b>EBITDA</b> (事業成長性)	1,298億円 (△16%)	1,240億円	<b>1,339億円 (+8%)</b>	<b>2,400億円 (2桁成長)</b>
<b>自己資本比率</b> (健全性)	43%	41%	<b>45%</b>	<b>50%</b>

- 16CSPで経営目標としている数値指標の進捗について
- 2018年3月期においては、4指標全て前期比で改善したが、営業利益率と事業成長性を示すEBITDAは、課題を認識
- 成長を期待する医療事業で投資が先行している中で、売上が期待どおりに伸びていない事が主因

---

## 2. 成長に向けた今後の方針

## 16CSPの目標達成に向けて

- 経営資源の効率的な活用、業務改革プロジェクトの推進等により、16CSPで掲げた重点施策を確実に実行する

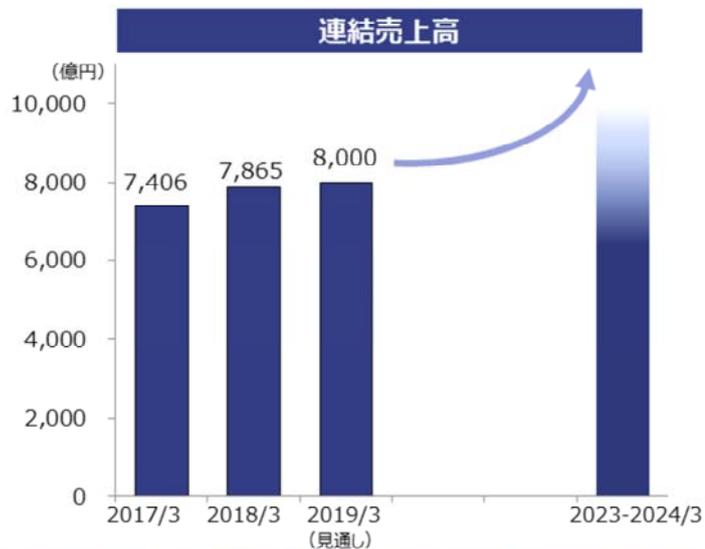
16CSP重点戦略
1. 事業成長に向けた積極的な取り組み
2. 必要経営資源の適時確保・最大活用
3. 持続的成長を可能とする将来に向けた仕込み
4. 更なる事業効率の追求
5. グローバル・グループ連結経営深化に向けた体制強化
6. 品質・製品法規制対応、内部体制の強化、コンプライアンスの徹底

- 経営視点でこれまでを振り返り、重点的に取り組むべきテーマは何か、目標達成に向けて必要なアクションを認識し、その対応も明確化した
- 大きな組織体制上の変更も実施
- 本年4月には「医療リプロセス統括部」を設置し、内視鏡の洗浄・消毒・滅菌の安全性を高める取り組みを強化し、
- 製品品質の強化や法規制遵守体制のさらなる強化を図り、医療事業を中心とした品質法規制部門の要員の大幅増強、法規制対応や製品登録機能および、市販後安全管理の強化を図っていく
- 「業務改革プロジェクト」を促進し、業務効率およびコスト構造を改善して収益力を高め、より強い企業に成長させるための取り組みをさらに強化する
- 重点的に取り組む施策を強化し、16CSPで掲げたテーマの見直しと開発体制の再整備に組み込み、遅延ない新製品導入により、重点施策を確実に実行する

## 16CSPの見直しについて：連結売上高・営業利益

- 16CSPの売上高・営業利益の為替前提を見直し
- 2～3年遅れで、調整した目標値を達成する見通し

【16CSP策定時】 【2019/3期 想定レート】  
円/USDドル：115円 → 円/USDドル：105円  
円/Euro：130円      円/Euro：130円



14 2018/5/11 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 現状を踏まえた16CSPの考え方について
- 16CSPの売上高・営業利益の為替前提を見直し
- 2～3年遅れで、調整した目標値を達成する見通し

# 成長に向けた今後の方針：①医療事業

※医薬品医療機器等法承認品を含む

■ 主力製品の導入により想定どおりの成長が見込めるため、戦略および数値目標の大きな変更はない見通し

## 基本方針（主なポイント）

### 消化器内視鏡

- 新製品の開発・製品化を確実に遂行
- 次世代システム導入までは販促プログラムを充実
- 法規制やプロセス（洗浄・消毒・滅菌）関連要求への対応強化
- 業務改革・効率化を通じた収益の確実な確保

### 外科

- 新製品の導入遅れや供給問題の早期解決
- 戦略製品の価値を訴求し、市場の成長率を上回る成長の実現
- シングルユース・デバイス売上拡大
- 収益性の向上

### 処置具

- 継続的な製品ラインアップの拡充、シングル・ユース・デバイスの拡販に向けたセールス組織・体制の強化

## 今後の成長をドライブする製品イメージ※



- 事業別の方針について
- 医療事業は、各分野における主力製品を導入することで、想定どおりの成長見通し
- 数値目標の大きな変更はない見通し
- 遅れることなく、確実に新製品を投入していくことが取り組むべき最重要課題
- 消化器内視鏡分野は、製品ライフサイクル後半の中で、次世代内視鏡システムの導入までは、販促プログラムを充実させ、成長を継続させていく
- 法規制および洗浄・消毒・滅菌に対する要求の高度化への対応も強化し、また、業務改革・効率化を通じて収益性もさらに向上していく
- 外科分野では、戦略製品である4Kに加えて、新たに投入した外科内視鏡の主力システムの後継機「VISERA ELITE II」や、エネルギーデバイス「サンダービート」は、いずれも医療従事者から高い評価
- 製品の供給問題を早期に解決し、各国の許認可を着実に取得し、16CSPの計画に沿った、市場の成長率を上回る成長を実現
- 処置具分野は継続して2桁成長を達成し、計画に沿って拡大中
- 今後も市場のニーズを捉えた製品ラインアップの拡充および、セールス体制の強化により、シェア拡大を目指す

## 成長に向けた今後の方針：②科学事業／映像事業

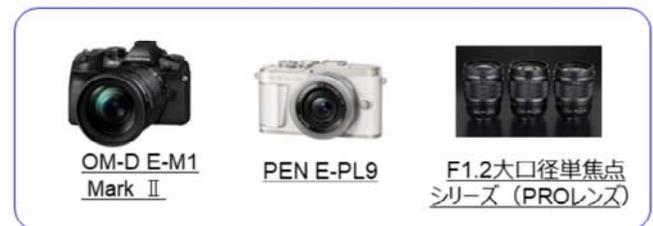
### 科学事業

- ライフサイエンス分野の戦略は見直す方向
- 当初目標として掲げた収益性の改善（営業利益率10%）を目指し、重点施策を確実に実行する
- ✓ ライフサイエンス分野：売上規模を追わず、収益性の追求へ方針を変更
- ✓ 産業分野：成長ドライバーである「製造」「インフラメンテナンス」「環境・天然資源」の各顧客群におけるポートフォリオ拡大を加速させ、利益ある成長を追求する



### 映像事業

- 当初の計画どおりの進捗
- 戦略および数値目標の変更はない（売上規模を追わず、安定的に利益を創出する）
- ✓ 黒字化構造の定着に向けて、構造改革を継続推進
- ✓ 中国シンセンからベトナム工場への生産移管完了後の生産能力強化と効率化の推進
- ✓ 収益性の高いミラーレスカメラ・交換レンズの強化を継続し、Specialistの顧客ニーズに合った販売戦略を推進



OLYMPUS

16 2018/5/11 No data copy / No data transfer permitted

- 科学事業と、映像事業の方針について
- 科学事業は、現状を踏まえてライフサイエンス分野の戦略を見直す方向
- 映像事業は、戦略と数値目標のいずれも大きな変更はなし
- 両事業とも、当初目標として掲げた収益性にこだわり、重点施策を確実に実行していく
- 科学事業では、ライフサイエンス分野は選択と集中を進め、売上規模を追わず、収益性を追求する方針へ変更
- 産業分野は、成長ドライバーである各顧客群におけるポートフォリオ拡大を加速させ、利益ある成長を追求
- 映像事業では、黒字化構造の定着に向けて、構造改革を継続推進
- 中国シンセン工場の操業停止を5月7日に発表
- シンセンからベトナム工場への生産移管を円滑に進め、さらに、生産能力強化と効率化を図る
- 収益性の高いミラーレスカメラ・交換レンズの事業強化を継続し、Specialistのニーズに合った販売戦略を推進

## ご案内：「Investor Day 2018」開催

---

日時：	2018年9月5日（水）
主な内容：	16CSP（中期経営計画）を中心に事業の進捗を説明 （プレゼンテーション、質疑応答 ※製品展示あり）
登壇者：	代表取締役社長 笹 宏行 取締役副社長 CFO 竹内 康雄 医療事業責任者、米州統括責任者、ほか

## To be the greatest “Business to Specialist” Company

Business to Specialist Companyとして、顧客の要求、ニーズの本質を捉え、確実に事業成長と収益性の向上を目指す

- 当社の強みは、専門性の高い顧客のニーズを正しく理解し、的確なソリューションをスピーディーに提供していくこと
- これまでの事業成長も、こうした専門性の高い顧客、Specialistに対して、価値を提供することにより実現
- Specialistの要求やニーズに高い次元で応え、当社の価値を認めていただける市場でビジネスを強化していく、これが16CSPの戦略の基盤
- これを実現することで、確実に事業成長と収益性の向上につなげていく方針
  
- 株主還元は、16CSPでは、財務基盤の強化と成長投資を優先しつつ、総還元性向30%を目標
- 2019年3月期の当期利益は前期並みの見通したが、財務体質の改善により、配当は1株あたり前年比で2円増配となる30円を予定
- 総還元性向30%の目標は、後ろ倒しをしない方針

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

# 2018年3月期 連結決算概況 2019年3月期 通期見通し

2018年5月11日  
オリンパス株式会社  
取締役副社長執行役員 CFO  
竹内 康雄

## 2018年3月期 通期実績 ①連結業績概況

- ① 売上高 : 主力の医療事業を中心に堅調に推移し、前年比6%増収
- ② 利益 : 全ての利益項目で前年比2桁増益

(単位: 億円)	通期実績 (4-3月)				為替影響調整後	2018年3月期見通し (2月9日公表)	見通し比 増減額	見通し比
	2017年3月期	2018年3月期	前年比					
売上高	7,406	7,865	+6%	+2%	7,840	+25	0%	
売上総利益 (売上総利益率)	4,785 (64.6%)	5,105 (64.9%)	+7%	+2%	5,200 (66.3%)	▲95	▲2%	
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,977 (53.7%)	4,266 (54.2%)	+7%	+4%	4,300 (54.8%)	▲34	▲1%	
その他の収益および費用等	▲96	▲29	-	-	▲40	-	-	
営業利益 (営業利益率)	712 (9.6%)	810 (10.3%)	+14%	▲1%	860 (11.0%)	▲50	▲6%	
税引前利益 (税引前利益率)	625 (8.4%)	767 (9.8%)	+23%		790 (10.2%)	▲23	▲3%	
当期利益* (当期利益率)	428 (5.8%)	571 (7.3%)	+33%		630 (8.0%)	▲59	▲9%	
円/USドル	108円	111円			111円	2018年3月期年間配当		
円/Euro	119円	130円			128円	期末配当28円		

20 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

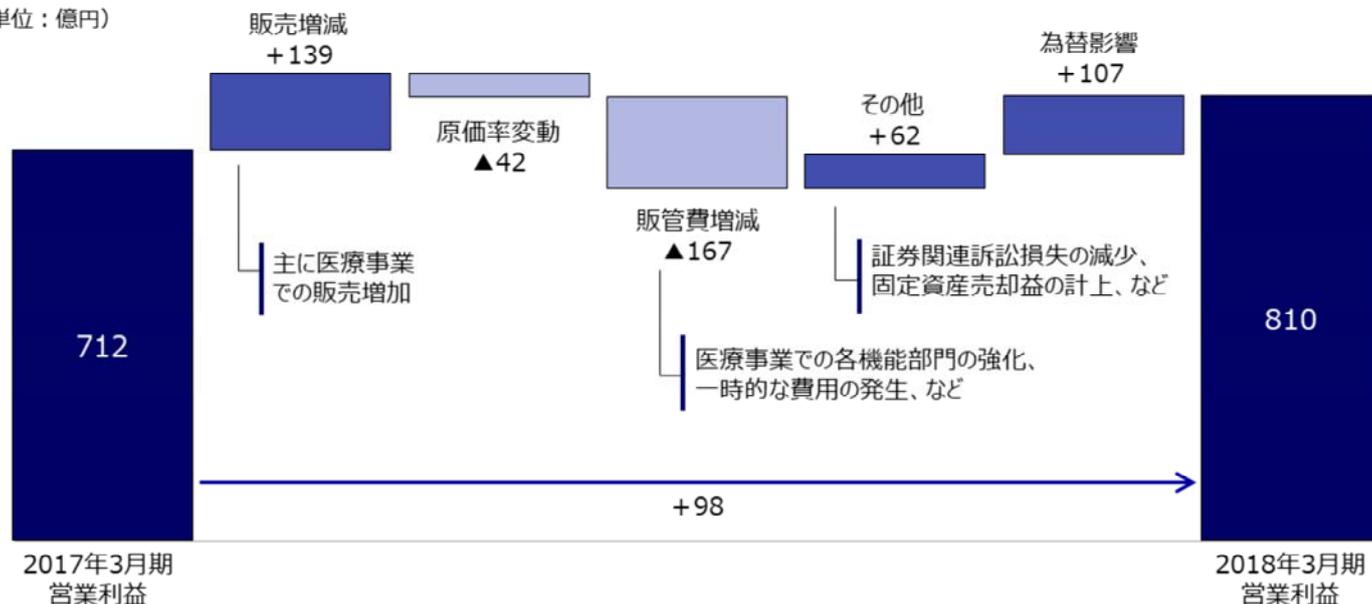
OLYMPUS

- 2018年3月期 連結実績
- 連結売上高は、前年比6%増収の7,865億円
- 営業利益は、同14%増益の810億円
- 円安の追い風もあり、増収増益
- 税引前利益は、金融収支の改善などにより、前年比23%増の767億円
- 当期利益は、前年比33%増の571億円となり、全ての利益項目で前年比2桁増益
- 2018年3月期末の配当は、期初の予定通り28円を予定

## 2018年3月期 通期実績 ①連結営業利益増減要因

通期実績 (4-3月)

(単位：億円)



21 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- 営業利益の主な増減要因
- 販売増減：医療事業および科学事業で増収となった結果、139億円、営業利益全体のプラスに寄与
- 原価率変動：医療事業におけるプロダクトミックスの影響等により悪化し、全体では42億円のマイナス要因
- 販管費増減：主に医療事業において、各機能部門の強化などにより、人員が増加し、167億円マイナスに影響。これら人件費の増加に加えて、上期に発生したM&Aや法務関連の対応費用などの一時費用や、欧州医療機器の新たな規制であるEU-MDRの法規制対応費用等も、販管費が増加する要因
- その他：証券訴訟の和解等に伴う損失が前期から減少したことや、海外現地法人の固定資産売却益が発生したことなどにより、62億円プラスに寄与
- 為替影響：107億円プラスに寄与

## 2018年3月期 通期実績 ②セグメント別概況

- 医療：通期実績、4Q実績ともに過去最高の売上高を計上し、全社業績を牽引
- 科学：良好な市場環境を背景に、7%増収を達成
- 映像：中国生産子会社操業停止に伴う費用発生等により、営業損失を計上（左記費用を除くと営業利益は3億円）

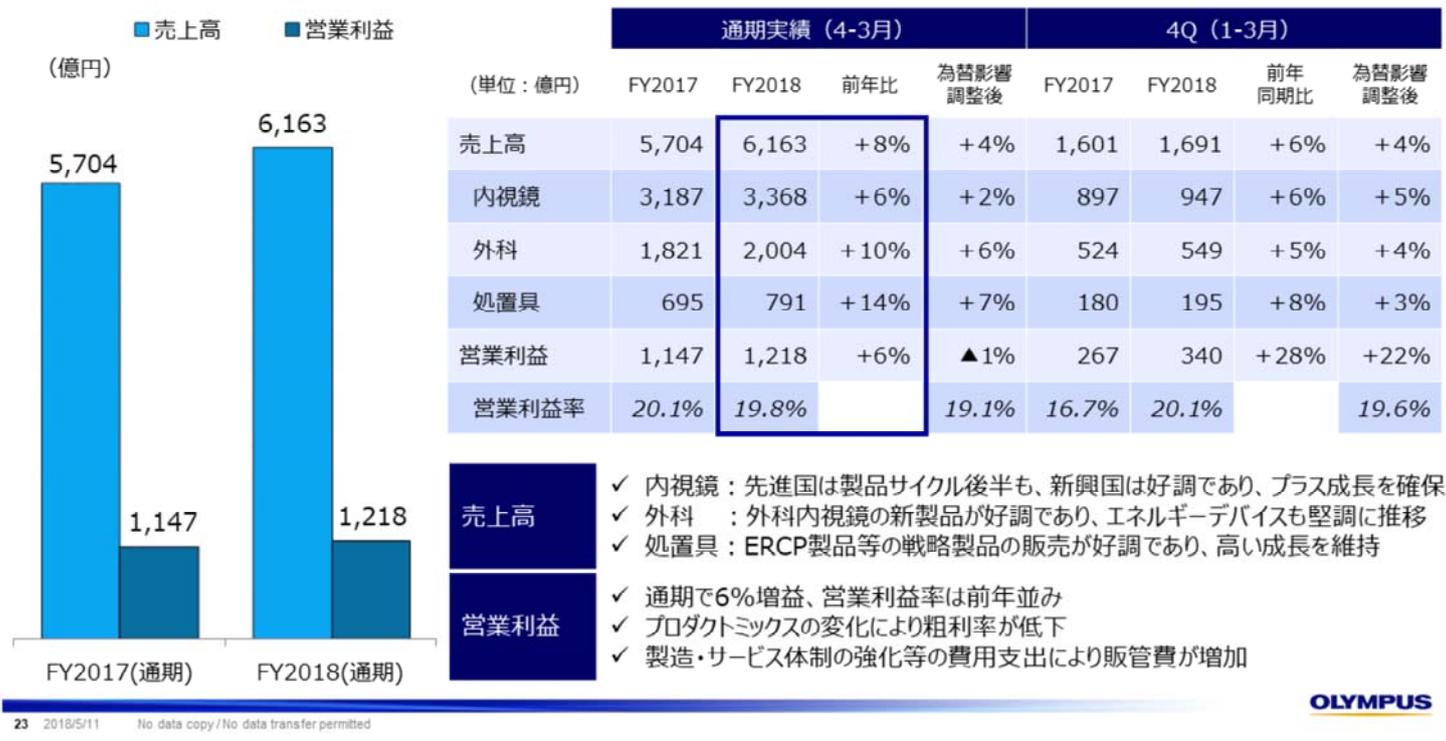
(単位：億円)		通期実績 (4-3月)				4Q実績 (1-3月)			
		2017年3月期	2018年3月期	前年比	為替影響調整後	2017年3月期	2018年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	5,704	6,163	+8%	+4%	1,601	1,691	+6%	+4%
	営業利益	1,147	1,218	+6%	▲1%	267	340	+28%	+22%
科学	売上高	934	1,000	+7%	+3%	298	300	+1%	0%
	営業利益	59	64	+8%	▲10%	41	29	▲28%	▲29%
映像	売上高	628	603	▲4%	▲8%	160	130	▲19%	▲20%
	営業利益	2	▲12	▲14億円	▲21億円	▲7	▲27	▲20億円	▲24億円
その他	売上高	140	99	▲29%	▲30%	28	24	▲16%	▲15%
	営業利益	▲11	▲50	▲38億円	▲38億円	▲19	▲21	▲3億円	▲3億円
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲485	▲410	+74億円	+69億円	▲129	▲109	+21億円	+17億円
連結合計	売上高	7,406	7,865	+6%	+2%	2,088	2,144	+3%	+1%
	営業利益	712	810	+14%	▲1%	152	212	+39%	+25%

22 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

- セグメント別の概況
- 医療事業は、通期実績、4Q実績ともに過去最高の売上高を計上し、前年比8%増収の6,163億円と、全社の業績
- 営業利益は同6%増益
- 科学事業は、産業分野で良好な市場環境が続いており、売上高は7%増収
- 営業利益は同8%増益
- 映像事業は、主にコンパクトカメラの販売減少により、売上高は前年比4%減収
- 営業損益は、5/7に発表した生産構造改革に伴う、中国生産子会社操業停止の費用等を一部認識したことにより、損失を計上
- この影響を除くと、営業利益はプラス3億円
- その他事業は、前期に子会社を売却した影響等もあり、減収減益
- 全社・消去は、訴訟関連損失の減少等により、損失幅が縮小

## 2018年3月期 通期実績 ③医療事業



### ● 医療事業

- 売上高：前年比8%増の6,163億円
- 内視鏡、外科、処置具の全分野で増収
- 営業利益：前年比6%増の1,218億円
- 営業利益率：前年並みとなる19.8%
- ただし、2月に公表した外部公表に対しては、大きく下回る
- 主に、十二指腸スコープや泌尿器用スコープについて、想定以上の引当費用が発生したことや、欧州修理拠点の立ち上げ費用等の一時費用が増加し、粗利率が低下したことによる

## 2018年3月期 通期実績 ③医療事業

分野	地域	現地通貨別成長率				分野別の状況
		2017年3月期		2018年3月期		
		4Q	通期	4Q	通期	
消化器内視鏡	日本	0%	▲2%	▲3%	▲2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日米欧：主力製品がライフサイクル後半であり、前年並みの成長</li> <li>アジア・オセアニア：特に中国が好調に推移</li> </ul>
	北米	0%	0%	+7%	+1%	
	欧州	+8%	+6%	+7%	▲1%	
	豪亜	+14%	+18%	+6%	+10%	
	全地域	+4%	+4%	+5%	+2%	
外科	日本	▲7%	▲2%	+12%	+9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本：「VISERA ELITE II」の新製品効果とエネルギーデバイスの好調な売上により、堅調な伸び</li> <li>北米：主力製品がライフサイクル後半であるものの、ISM社との連携効果による商談成立もあり、プラス成長を確保</li> <li>欧州：前年同期の高成長の反動により、4Qはマイナス成長</li> </ul>
	北米	▲1%	+2%	+6%	+2%	
	欧州	+35%	+10%	▲6%	+6%	
	豪亜	+7%	+10%	+3%	+10%	
	全地域	+6%	+4%	+4%	+6%	
処置具	日本	+4%	+7%	+3%	+7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ERCP*製品等の販売が堅調であり、全地域でプラス成長</li> <li>特にアジア・オセアニアが好調</li> </ul>
	北米	+7%	+10%	0%	+4%	
	欧州	+5%	+6%	+3%	+3%	
	豪亜	+7%	+9%	+8%	+16%	
	全地域	+5%	+7%	+3%	+7%	

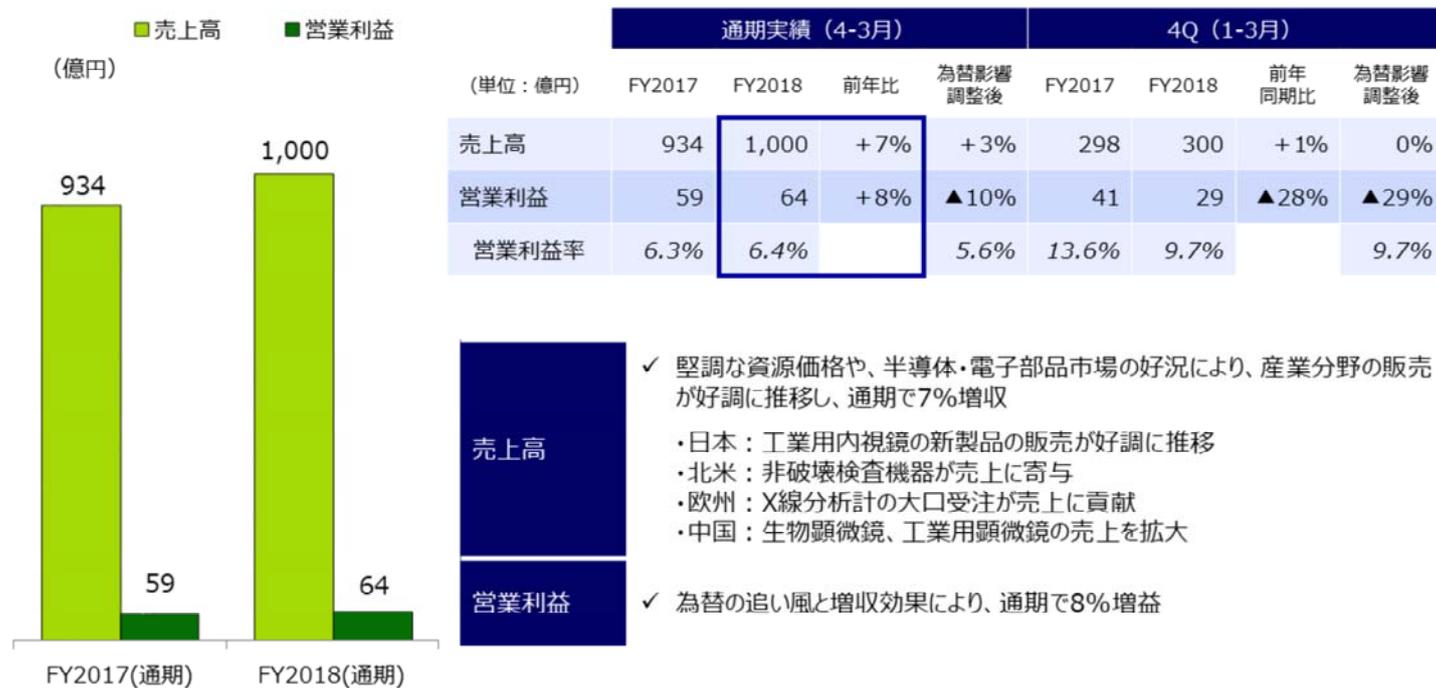
\*ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影

OLYMPUS

24 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

- 為替を除く実質ベースの成長率
- 消化器内視鏡分野：
  - 先進国では主力製品がライフサイクル後半となる中、下期は挽回し、グローバルでプラス成長を確保
- 外科分野：
  - 日本は、新製品「ビセラ・エリート・ツー」および、エネルギーデバイスのサンダービートが好調に推移
  - 欧州は、第4四半期は前年同期の35%成長の反動もあり、マイナス成長だが、成長基調は継続
  - 北米は、ISM社との連携による商談成立など、4K外科内視鏡やシステムズインテグレーションの販売が順調に推移したことで、プラス成長
- 処置具分野：
  - 各地域で市場特性にあった製品が販売を伸ばし、引き続き全地域で堅調に推移

## 2018年3月期 通期実績 ④科学事業



25 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

### ● 科学事業

● 売上高：前年比7%増収の1,000億円

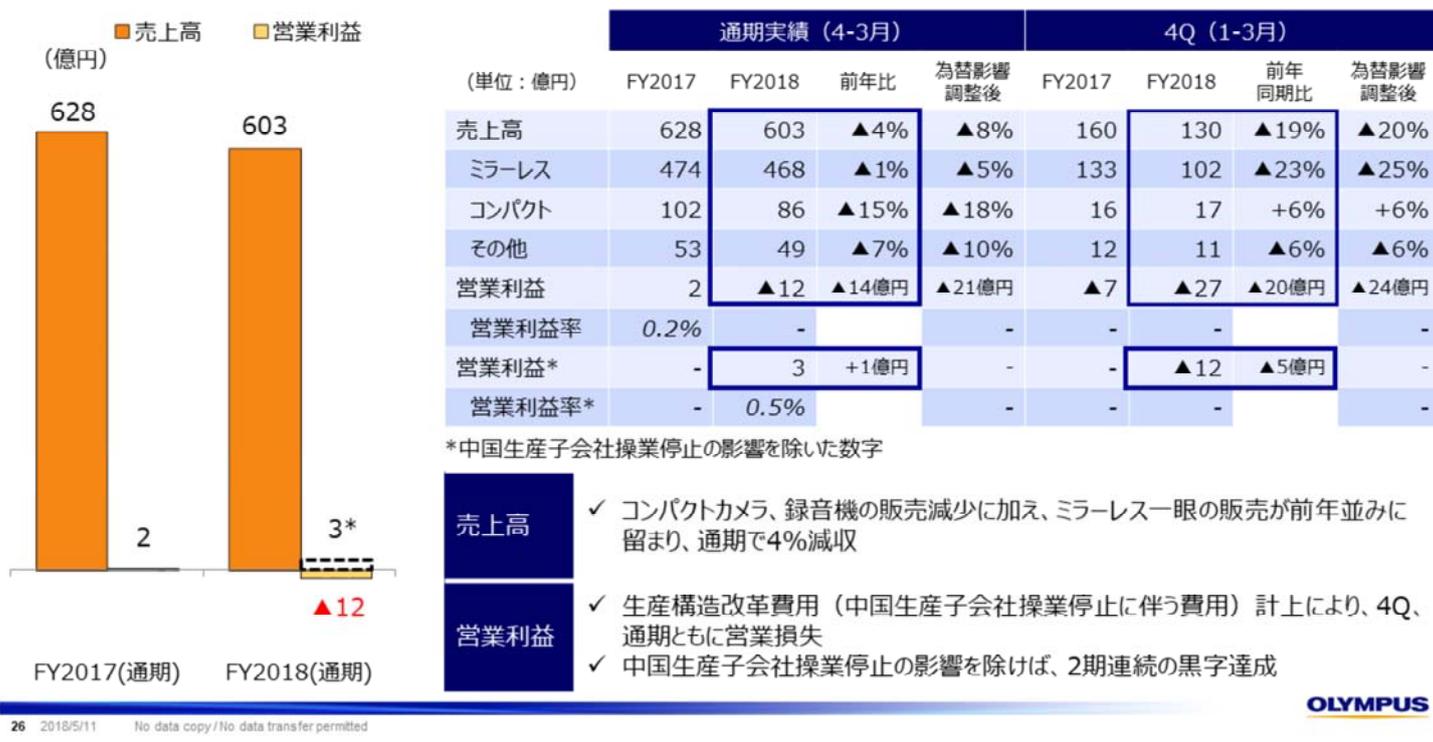
● 営業利益：同8%増益の64億円

● 資源価格が堅調に推移するなど外部環境が良好であることから、産業分野の販売が好調に推移

● 特に、半導体や電子部品検査向けの工業用顕微鏡および非破壊検査機器が売上を牽引

● 営業利益は、ライフサイエンス分野の減収により損益が悪化したものの、為替の追い風もあり、増益

## 2018年3月期 通期実績 ⑤映像事業



● 映像事業です。

● 売上高：前年比4%減の603億円

● 営業損益：12億円の営業損失

● コンパクトカメラは前年比15%の減収、ミラーレス一眼は、下期以降、競合環境が激化した影響もあり、OM-Dシリーズを中心に前年並みの売上

● 営業損益は、中国生産子会社操業停止に伴う費用を一部計上したことにより、損失を計上

● この影響を除くと、収益性の高いミラーレス一眼やレンズ等の売上構成比が上昇していることから、2期連続で黒字を確保しており、事業の収益構造は着実に黒字体質に変化している

## 財政状態計算書

- 資本 : 当期利益571億円の計上により利益剰余金が増加
- 自己資本比率 : 利益剰余金の増加および有利子負債の削減により45.2%に

(単位：億円)	2017年 3月末	2018年 3月末	増減額		2017年 3月末	2018年 3月末	増減額
流動資産	5,057	5,143	+85	流動負債	2,865	3,059	+195
棚卸資産	1,253	1,393	+140	社債及び借入金	688	888	+200
非流動資産	4,543	4,644	+101	非流動負債	2,774	2,285	▲489
有形固定資産	1,597	1,682	+85	社債及び借入金	2,172	1,592	▲580
無形資産	759	734	▲25	資本	3,962	4,443	+480
のれん	956	972	+16	自己資本比率	41.1%	45.2%	+4.1pt
資産 合計	9,600	9,787	+186	負債及び資本 合計	9,600	9,787	+186

有利子負債：2,480億円（2017年3月末比▲380億円）

- 財政状態
- 自己資本は当期利益571億円の計上により、前期末から480億円増加し、4,443億円
- 自己資本比率は、借入金の返済等により有利子負債を380億円減少させた結果、前期末比で4.1ポイント上昇し、45.2%
- 棚卸資産が140億円増加しましたが、これは主に為替による影響と、医療事業においてBCP対応等の在庫を戦略的に積み増したことによる

## 連結キャッシュフロー計算書

- FCF：欧州の製造サービス拠点強化に伴う設備投資や、ISM社\*買収による支出があった一方、事業活動から創出される利益を中心に、418億円を確保

(単位：億円)	通期実績		増減
	2017年3月期	2018年3月期	
売上高	7,406	7,865	+459
営業利益	712	810	+98
営業利益率	9.6%	10.3%	+0.7pt
営業キャッシュフロー	1,021	951	▲69
投資キャッシュフロー	▲208	▲533	▲325
フリーキャッシュフロー	812	418	▲394
財務キャッシュフロー	▲436	▲511	▲74
現金及び現金同等物期末残高	1,995	1,912	▲82
減価償却費	529	529	0
設備投資額	607	653	+46

- キャッシュフローの状況
- 営業キャッシュフロー：医療事業を中心とした事業活動からの利益を中心に951億円
- 前年対比では、主に仕入債務の減少や法人所得税等の支払い増加により、69億円減少
- 投資キャッシュフローは、欧州の製造サービス拠点強化に伴う設備投資や、Image Stream Medical社の買収等により、533億円のマイナス
- 前年対比では、前期はテルモ社株式の売却による収入があったため、325億円減少
- フリーキャッシュフロー：418億円のプラスを確保
- 財務キャッシュフロー：手元資金等で、有利子負債約380億円を返済

---

# 2019年3月期 通期業績見通し

## 通期見通し ①連結業績

- 医療事業が堅調に推移し、前年比2%の増収
- 映像事業で中国生産子会社操業停止の追加費用等が発生するも、為替を除く実質ベースでは、同9%の増益

(単位：億円)	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期見通し	増減	前年比	為替影響調整後 前年比
売上高	7,865	8,000	+135	+2%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	5,105 (64.9%)	5,270 (65.9%)	+165	+3%	+6%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,266 (54.2%)	4,380 (54.8%)	+114	+3%	+5%
その他の収益および費用等	▲29	▲80	▲51	-	-
営業利益 (営業利益率)	810 (10.3%)	810 (10.1%)	0	0%	+9%
税引前利益 (税引前利益率)	767 (9.7%)	760 (9.5%)	▲7	▲1%	
当期利益* (当期利益率)	571 (7.3%)	590 (7.4%)	+19	+3%	
EPS	167円	173円			
円/USドル	111円	105円	▲6円(円高)		
円/Euro	130円	130円	-		

2019年3月期配当予想
年間配当30円を予定

30 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

OLYMPUS

- 2019年3月期の通期業績見通し
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、直近の為替相場動向を鑑み、1ドル105円、1ユーロ130円
- 売上高は、堅調な医療事業が全社を牽引し、前年比2%増収の8,000億円
- 営業利益は、映像事業で中国生産子会社操業停止の追加費用等が発生するため、前年並みとなる810億円を見込む
- 為替影響を除く実質ベースでは、同9%の増益
- 当期利益は、前年比3%増の590億円を見込む
- 2019年3月期の配当予想につきましては、30円に増配予定

## 通期見通し ②セグメント別業績

- 医療：収益力を強化し、営業利益は2桁成長
- 科学：為替を除く実質ベースでは、増収増益を確保
- 映像：中国生産子会社操業停止の費用発生等により、営業損失を計上（左記費用を除くと営業利益は25億円）

(単位：億円)		2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期見通し	増減額	前年比	為替影響調整後 前年比
医療	売上高	6,163	6,340	+177	+3%	+6%
	営業利益	1,218	1,350	+132	+11%	+17%
科学	売上高	1,000	1,000	0	0%	+3%
	営業利益	64	70	+6	+9%	+31%
映像	売上高	603	600	▲3	0%	+1%
	営業利益	▲12	▲70	▲58	-	-
その他	売上高	99	60	▲39	▲39%	▲39%
	営業利益	▲50	▲60	▲10	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-
	営業利益	▲410	▲480	▲70	-	-
合計	売上高	7,865	8,000	+135	+2%	+4%
	営業利益	810	810	0	0%	+9%

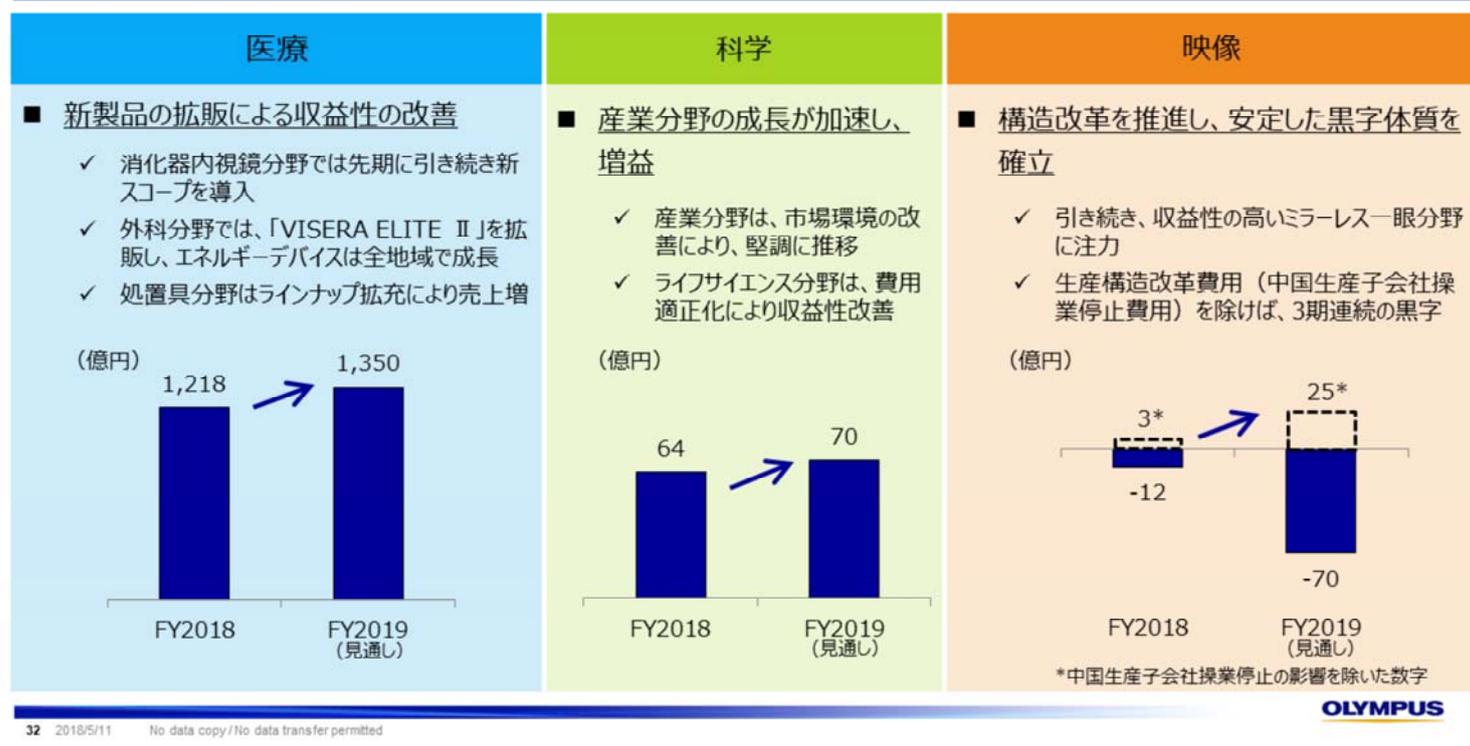
31 2018/5/11 No data copy/No data transfer permitted

OLYMPUS

### ● セグメント別の業績見通し

- 医療事業：外科分野と処置具分野が医療事業の成長を牽引し、前年比3%の増収を目指す
- 科学事業：前年並みの売上
- 産業分野を中心に戦略製品を拡販し、為替を除く実質ベースでは、前年比3%の増収となる見通し
- 映像事業：コンパクトカメラは計画に沿って縮小させる一方、ミラーレス一眼は増収を見込む

## 通期見通し ③セグメント別業績詳細

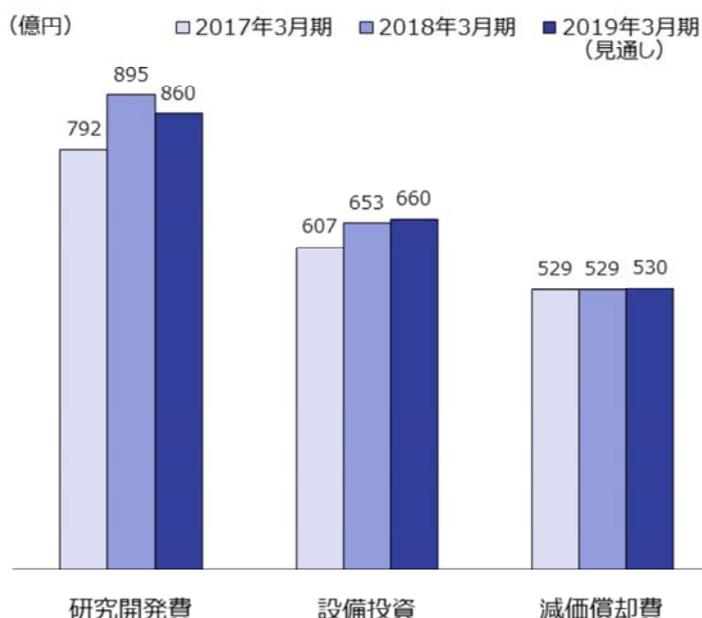


### ● セグメント別の業績見通しの営業利益

- 医療事業：先期に発生した引当金や一時費用がなくなることに加えて、各分野で新製品を投入し、拡販することにより、2桁増益を目指す
- 消化器内視鏡分野では、先期に引き続き複数の新しいスコープの導入を予定しており、収益性の改善を図る
- 外科分野では、「ビセラ・エリート・ツー」の販売を加速し、エネルギーデバイスは今期も全地域で成長を見込む
- 処置具分野は、地域ごとに新製品を投入し、ラインアップ拡充を進める
- 科学事業：良好な市場環境を背景とした産業分野が堅調に推移し、増益となる見通し
- 映像事業：中国生産子会社操業停止に伴う費用、およびベトナム生産子会社への生産移管費用の追加発生を見込んでおり、70億円の営業損失となる見通し
- その影響を除くと、営業利益はプラス25億円となり、実質的には3期連続の黒字となる見通し

## 投資等（研究開発費、設備投資、減価償却費）

通期実績および見通し



研究開発費詳細

(単位：億円)

	FY2017	FY2018 (*1)	FY2019 (見通し)
研究開発費 (対売上高比率)	792 (10.7%)	895 (11.4%)	860 (10.8%)

ご参考

(単位：億円)

	FY2017	FY2018	FY2019 (見通し)
開発費資産化(*2)	70	103	120
償却費	48	70	

2017年3月末 2018年3月末

開発資産残高	283	325
--------	-----	-----

(\*1) 全子会社で親会社と同様の発生基準に統一したベース  
 (\*2) 開発費資産化の数値は上段の研究開発費に含まれていません

OLYMPUS

- 研究開発費、設備投資、減価償却費の見通し
- 今期の研究開発費は860億円を見込む
- 先期は、既存品を中心としたサイバーセキュリティ対応費用が想定以上に発生したため、研究開発費が大幅に増加
- 今期はその費用がなくなるため、前年比で35億円の減少を見込む
- 一方で、次世代内視鏡システムの開発は佳境に入っており、開発費の資産化は前年比で17億円増加する見通し
- 設備投資は、先期に引き続き欧州の製造サービス拠点強化を予定しており、660億円を見込む

**OLYMPUS**

Your Vision. Our Future

**OLYMPUS**

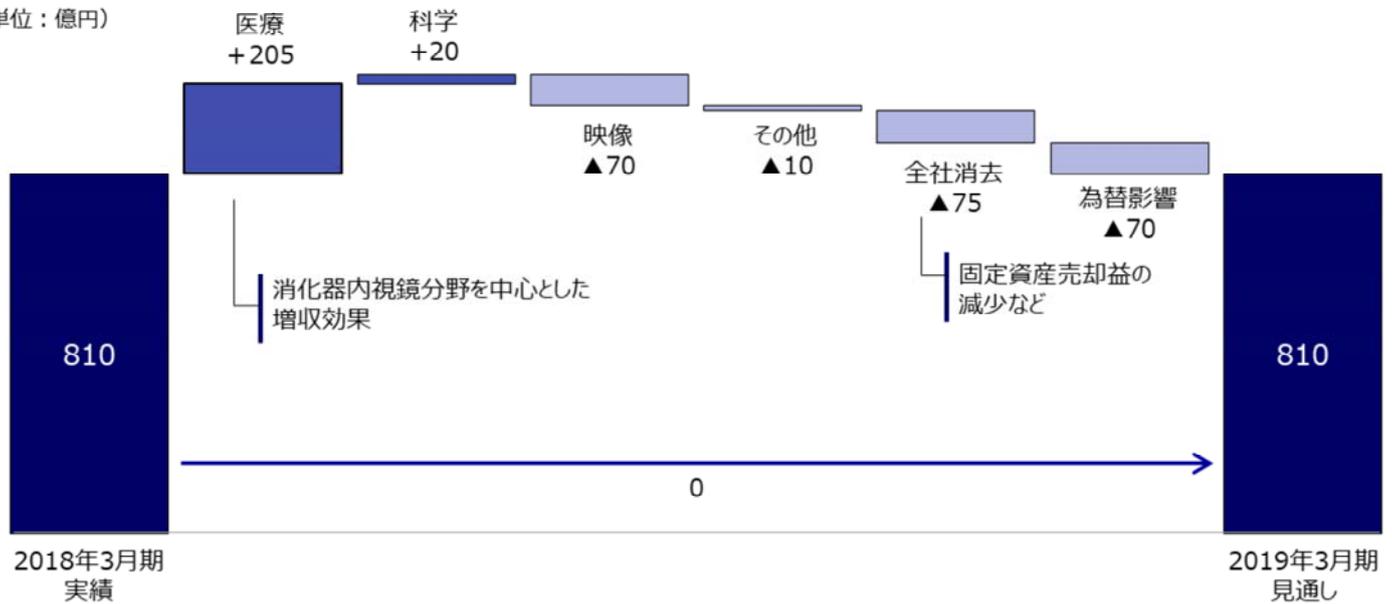
---

# Appendix

# 【参考資料】通期見通し 営業利益の増減分析（前年同期比）

通期実績（4-3月）

（単位：億円）



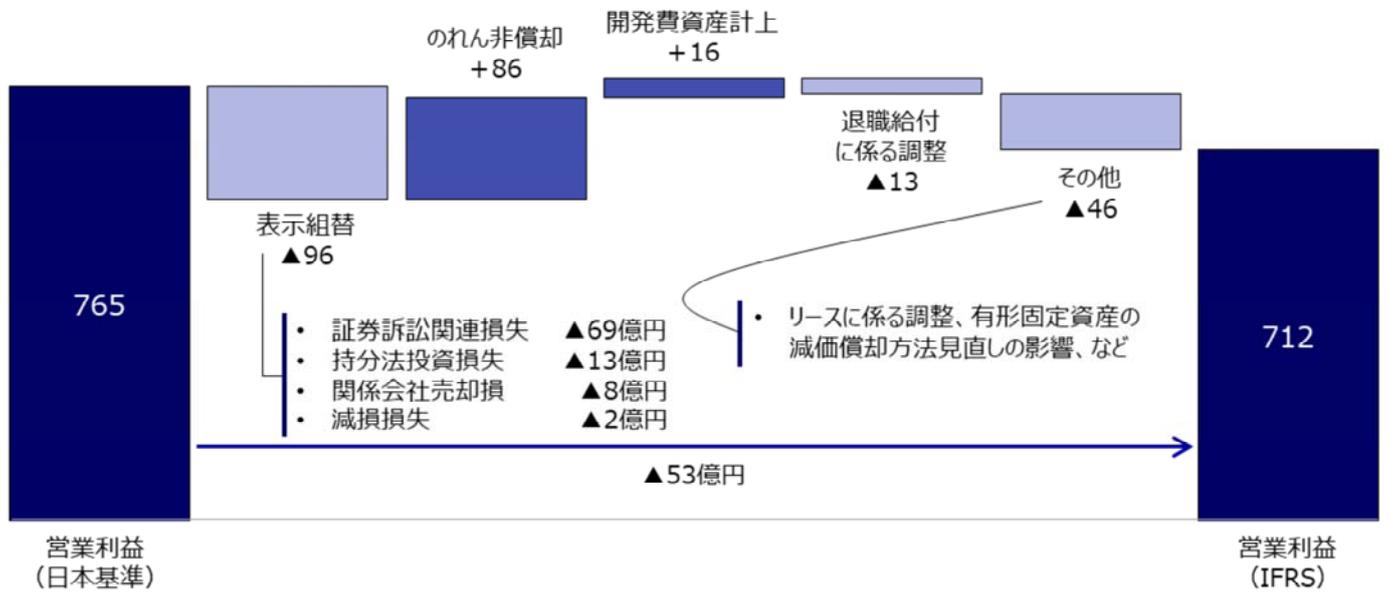
【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ①連結業績

通期実績（4-3月）

(単位：億円)	通期実績（4-3月）		差異
	2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	
売上高	7,481	7,406	▲75
営業利益	765	712	▲53
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	817	625	▲192
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	782	428	▲354

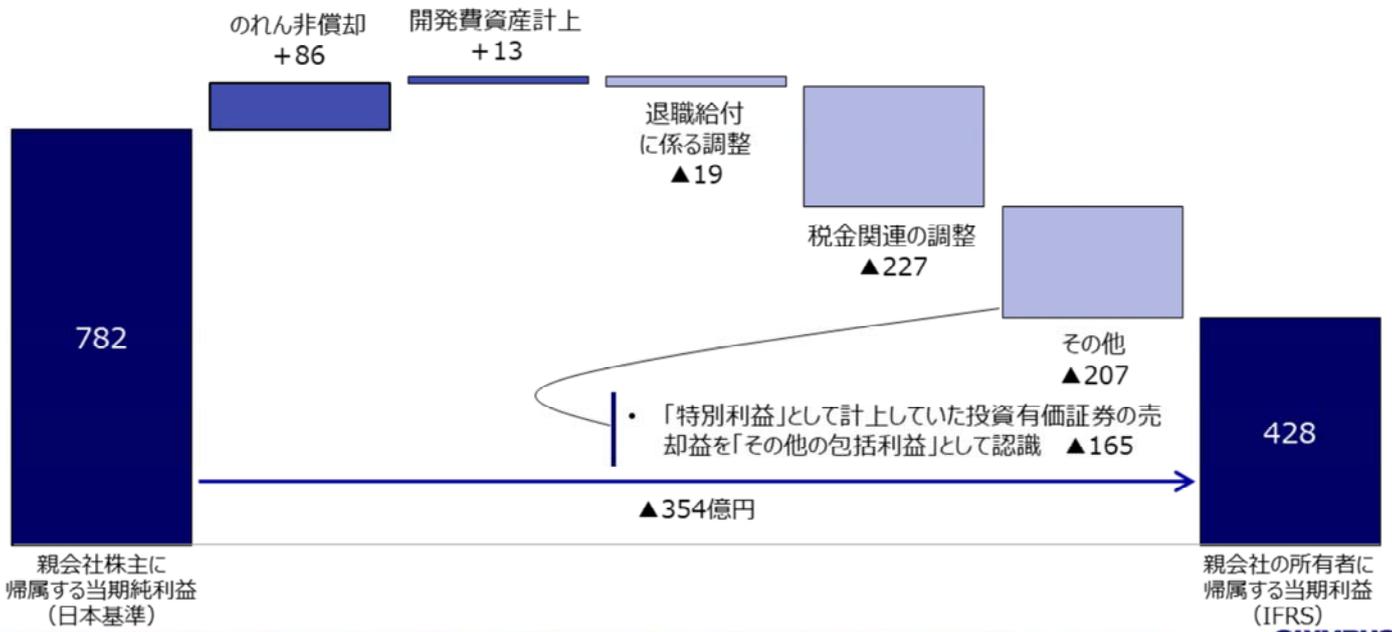
【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ②営業利益増減分析

通期実績（4-3月）



【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ③当期利益増減分析

通期実績 (4-3月)



【参考資料・IFRS比較】2017年3月期 通期 ④セグメント別業績

(単位：億円)		通期実績（4-3月）		差異
		2017年3月期実績 (日本基準)	2017年3月期実績 (IFRS)	
医療	売上高	5,753	5,704	▲49
	営業利益	1,155	1,147	▲8
科学	売上高	932	934	+2
	営業利益	53	59	+6
映像	売上高	656	628	▲28
	営業利益	5	2	▲3
その他	売上高	140	140	0
	営業利益	▲46	▲11	+35
全社・消去	売上高	-	-	-
	営業利益	▲402	▲485	▲83
連結合計	売上高	7,481	7,406	▲75
	営業利益	765	712	▲53